
にほんじんかみ
日本人は神への
ちしき
知識がないために
ほろ
滅ぼされる!!

ひがしにほんだいしんさい
東日本大震災はなぜ起きた?
かみじんるいけいこく
～神から人類への警告～

もくじ

この冊子を、偶然はなく手にされた“あなた様”に…	2
神から全人類へ…	6
【カルト】からの解放	9
神の怒りは三、四代に及ぶ	15
東日本大震災の原因	16
イエス様の血の力	21
神の愛を見えなくさせる人間の情	24
情にまかれているクリスチャンへの警告	29
神の守りの中に入る	31
○イエス・キリストと助け主=聖霊を受け入れる(主への告白の祈り)	32
聖書を信じていない皆さんへ	35
世の終わりが近い	37
最後に…	39
○カトリックの皆さんへ	41
○プロテスタントの皆さんへ	42
「ぶどうの木」の紹介	46

この冊子を、偶然はなく手にされた“あなた様”に…

【主は言われる、「あなたがたはわが証人、わたしが選んだわが
しもべである。それゆえ、あなたがたは知って、わたしを信じ、
わたしが主であることを悟ることができる。わたしより前に造ら
れた神はなく、わたしより後にもない。ただわたしのみ主である。
わたしのほかに救う者はいない。わたしはさきに告げ、かつ救い、
かつ聞かせた。あなたがたのうちには、ほかの神はなかった。
あなたがたはわが証人である」と主は言われる。

「わたしは神である、今より後もわたしは主である。わが手から
救い出しうる者はない。わたしがおこなえば、だれが、これをとど
めることができよう。】

(聖書イザヤ書43章10節～13節)

どうしても、何とかして、一人でも多くの人に、まずは同じ日本人
に伝えたい、伝えなければならない、何よりも大切な事があります！
でもそれは、【あなたの目がまだ見ず、あなたの耳がまだ聞かず、
あなたの心に今まで思い浮かびもしなかったこと】かもしれません。
あなたにとっては、とても受け止められない、受け入れ難い、ひどい
事実かもしれません。あなたの人生にとって大革命で、あなたを
悩まし苦しめる話かもしれません。
それでも、人間として、今、同じ時代を生きる日本人として、どう
しても聞いていただきたい、知ってもらいたい、何とかして伝えたい、
その気持ちが勝る事なのです。
私たちくぶどうの木>のあふれる思いが、強い願いが、この冊子
誕生の原動力となり、今あなたの御手元に至りました。どうか、
途中でやめる事なく、必ず最後までご一読下さい。

この冊子をたとえて言うならば、近年ニュースで耳にするようにな
った『入り江に迷い込んだ鯨』を、なんとかして大海原に戻そう
と誘導するもの。また、『矢の刺さったカモ』・“矢ガモ”を、なんとか
して捕まえて矢を抜き、楽に元気によみがえらせてあげたいと願
はたら働きかけるものであります。
あなたがその“鯨”だとしたら、あなたがその“矢ガモ”だとしたら…
なんとしてでも命に導きたいのが、私たちくぶどうの木>の思いです。

私たち自身も、かつてはその“鯨”、その“矢ガモ”でした。
水のない浅瀬で、苦しみもがき死んでいく鯨、矢を抜いてもらう

ことから逃げまどい、失血死に至るカモ、私たちはそんな人間でした。だからこそ、大海原に戻された時、矢を抜いてもらった時の言葉にあらわせない感謝の気持ちも知っているのです。

あなたが『裸の王様』だとしたら…私たちは「王様、裸です！」と言います。無視されるかもしれない、「うるさい！」と怒鳴られるかもしれない、「なんて失礼な事を言うのか！」とたしなめられるかもしれない、もしかしたら殺されるかもしれない…それでも、伝えてみます。それが人間として、本当の愛だと信じているからです！見て見ぬふりや、無関心は愛のないあらわれ、それが今の日本、日本人をつくったと私たちは思っています。その時は、王様（あなた）もまっすぐ素直に受け止められないで、色々思ったり、考えたりするでしょう。人間にはプライドも自由もあるので、逆に「そんなことは余計なお世話！私は裸が好きなんだ！」と返答されるかもしれません。それでも伝えておきます。あなたと同じ立場にいた一人として、その愛に救われた一人として、いつか必ず、あなたも分かる時が来ると信じて伝えます。

もし、「裸ですよ！」と言われた事がなかったら、一生気づく事もなく、知る事もなく、裸のままどんどん悪い状態に陥り、滅んでしまって…私たちは、死んでおわり！ではないことも知りました。見過ごしにするわけにはいかないです。

聖書には、【裸のままで歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を身に着けている者は、さいわいである。】（聖書ヨハネの黙示録16章15節b）と書かれています。

着物とは、本来なら人生のはじまりから身に着けておかなければならなかった、身に着けておけばよかった、何よりも大切な事実。いまだに日本人が知らずにきた真実。あるいは誤った知識を持って、さも知っているつもりできた真理です。今の日本、日本人は何の武具もない素っ裸で無防備な、最もあわれむべき人間と言えます。

【わたしたちは、真理に逆らっては何をする力もなく、真理にしたがえば力がある。】（聖書コリント人への第2の手紙13章8節）

真理にしたがえば力がある！を、まず私たちが実践一大海原に誘導され、水を得て、矢を抜いてもらい、裸の恥を認めて、目をさまして衣を身に着け、今この冊子を産み出すに至りました。それは、確かに日本に生まれ育った私たちにとって、人生において、大革命と言うにふさわしい体験の日々でした。今、それを一言で表現するなら、「私たちはこの世から救われたのだ…」と言えます。

次は、あなたが救われてほしい…
この冊子を通して、眞の神であるイエス・キリスト（救い主）の救いがあなたに臨むことを、ぶどうの木一同、心より祈っています。

コリント人への第一の手紙2章9節～10節a
【しかし、聖書に書いてあるとおり、「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」のである。そして、それを神は、御靈によってわたしたちに啓示して下さったのである。】

日本人よ…

あなたがたは、あらゆる点において、すこぶる宗教心に富んでおられると、わたしは見ている。実は、わたしが道を通りながら、あなたがたの拝むいろいろなものを、よく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇もあるのに気がついた。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、いま知らせてあげよう。この世界と、その中にある万物とを造った神は、天地の主であるのだから、手で造った宮などにはお住みにならない。また、何か不足でもしておるかのように、人の手によって仕えられる必要もない。神は、すべての人々に命と息と万物とを与える、また、ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。こうして、人々が熱心に追い求めて搜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびとりから遠く離れておいでになるのではない。われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。

(使徒行伝17章22節b～28節a)

皆さん、聖書を読まれたことがありますか？
聖書には、今の日本、世界の現状、この世で起こりうる問題の解答が、全て書かれています。さらには、これから先に起こる事も預言されています。

聖書を読んで生活（人生）の礎としている人間（クリスチヤン）には、「想定外」のことは一つもない…何が起きても“想定内”的として受け入れながら歩むことができます。

神はおっしゃっています。

【わたしの民は知識がないために滅ぼされる。】(ホセア書4章6節a)と。

<神から全人類へ…>

【思慮のない者たちよ、あなたがたは、いつまで思慮のないことを好むのか。あざける者は、いつまで、あざけりを楽しみ、愚かな者は、いつまで、知識を憎むのか。

わたしの戒めに心をとめよ、見よ、わたしは自分の思いを、あなたがたに告げ、わたしの言葉を、あなたがたに知らせる。わたしは呼んだが、あなたがたは聞くことを拒み、手を伸べたが、顧みる者はなく、かえって、あなたがたはわたしのすべての勧めを捨て、わたしの戒めを受けなかったので、わたしもまた、あなたがたが災にあう時に、笑い、あなたがたが恐慌にあう時、あざけるであろう。これは恐慌が、あらしのようにあなたがたに臨み、災が、つむじ風のように臨み、悩みと悲しみとが、あなたがたに臨む時である。その時、彼らはわたしを呼ぶであろう、しかし、わたしは答えない。

ひたすら、わたしを求めるであろう、しかし、わたしに会えない。
かれちしきにくしゅおそえらすすしたが
彼らは知識を憎み、主を恐れることを選ばず、わたしの勧めに従
わざ、すべての戒めを軽んじたゆえ、自分の行いの実を食らい、
じぶんはかあ
自分の計りごとに飽きる。

しりょうものふじゅうじゅんころおろものあんらく
思慮のない者の不従順はおのれを殺し、愚かな者の安樂はおのれを
ほろ滅ぼす。しかし、わたしに聞き従う者は安らかに住まい、災に会う
おぞれもなく、安全である。】

(箴言1章22節～33節)

かみすべにんげんかみきしたがものかみみむねおこなもの
神は、全ての人間を神に聞き従う者（神の御旨を行う者）と、神に
きしたがおろものかみみむねおこなもの
聞き従わない愚かな者（神の御旨を行わない者）とに分けて、
ぜんしゃわざわあおそあんぜんやくそくこうしゃ
前者には災いに会う恐れもなく安全だと約束してくださいり、後者
ほろせんげんじだい
には「滅ぼす」と宣言されています。これが、この時代にすでに
起きていることです。

みまことかみしん
見えない眞の神を信じることよりも、見える形で神を見いだそうと
わたしにほんじんにほんじんかみしんこう
したのが私たち日本人です。そして、日本人ほど神への信仰が
あいまいかみじんしゅけつこんしききょう
曖昧で、神をあざけっている人種はいません。結婚式はキリスト教
したがこどもうじんじやまいいそしきぶつそ
に従い、子供が生まれたら神社にお参りに行き、葬式は仏葬で…
にほんじん
そんな日本人がどれだけいるでしょうか？

にほんじんかみしちしき
日本人は、神を知る知識がなかったがために、また、神を知る
ことよりも自分の知恵に頼って生きようとしたがために、神の救い
から遠く離れてしまいました。自分が神の御手中で生きていること
し
も知らずに、神より自分が偉い者、高ぶった者になってしまった
のです。

それは、人類が誕生するずっと前に、神に一番仕えていた天使
いまよかみあくれいおやぶんかみどうとう
(今は、この世の神となったサタン“悪霊の親分”)が、神と同等に
なろうとして高ぶり、地上に落とされ、地獄行きが決定された
おな
のと同じです。サタンは、人間を地獄へ道連れにするために、神に
たいたかわたしじんりいにほんじんおし
対して高ぶることを私たち人類、日本人に教えてきたのです。

コリント人への第1の手紙1章18節～21節 a
じゅうじかことばほろゆものおろすくい
【十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあづかるわたし
かみちからせいしょちしゃ
たちには、神の力である。すなわち、聖書に、「わたしは知者の
ちえほろかしこものかしこ
知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしいものにする」と書いて
ちしゃがくしゃよろんしゃ
ある。知者はどこにいるか。学者はどこにいるか。この世の論者は
かみよちえおろ
どこにいるか。神はこの世の知恵を、愚かにされたではないか。
よじぶんちえかみみといた
この世は、自分の知恵によって神を認めるに至らなかった。】

にんげんたいどまことかみいか
人間はこのような態度によって、眞の神を怒らせてしまいました。
いませいしょかみほうふくひつし
そして、今、聖書は神の報復の日を告げ知らせています。この冊子
とおみなわたしにんげんのぞかみけいこく
を通して、皆さんが、私たち人間に臨んでいる神からの警告をしっかりと
うとひとりほろまことかみたかえ
受け止め、一人も滅びることなく眞の神に立ち返ることができる
いの
ようにと祈ります。

<【カルト】からの解放>

皆さんは、【カルト】と聞いたら何を思い浮かべますか？
世の中では一般的に、占い、魔術、降霊術、宗教とその教えなどに何らかの形でかかわりを持つこと、または、実行することをオカルチズム（神秘術）、【カルト】と呼んでいます。聖書では、このような行為をしている者を無条件で罪に定めていますが、これらに関わっていないからと言って安心してはいけません。先に述べたように、神より自分が偉いと思うその高ぶりは、“偽の神を眞の神と思って偶像礼拝してきた”という、人間の内にあるカルト心から溢れ出てくるのです。

神の目から見た【カルト】とは、神の御子イエス・キリスト以外のものや人を、目に見える神の形につくりあげて偶像とし、それに拝み仕えることを言います。また、心の内で頼りにする、なぐさめにすることを言います。
神は、イエス様によらなければ天国には行けない、イエス様だけが眞の神であるとおっしゃっています。

ヨハネによる福音書14章6節
【イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父（神）のみもとに行くことはできない。】

使徒行伝4章12節
【この人（イエス・キリスト）による以外に救はない。わたしたちを

すぐ救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられないからである。】

テモテへの第1の手紙2章4節～6節
【神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。神は唯一であり、神と人の間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。彼は、すべての人のあがないとしてご自身をささげられたが、それは、定められた時（約2000年前）になされたあかしにほかならない。】

それなのに人間は、自分の心のおもむくまま、好き勝手に偽の神々を偶像礼拝（カルト=宗教）してきました。
皆さんは、寺、仏像、仏壇、位牌、神社、神棚、自然界にやどる八百万の神々、お墓、遺骨、地蔵、お守り、かえる・ふくろう・干支（招福・縁起物といわれている物）の置物や飾り、お札、おみくじ、数珠、パワーストーン（今やペンダント、ブレスレットにアクセサリー化している）、パワースポット（土地）、新興宗教独自の飾りと教祖の写真、絵など、“ここに神（先祖）がいる”、“ここに靈がやどっている”と思うことで神を見い出していますか？また、お宮参り、七五三、端午の節句、ひなまつりなどの行事を通して、各地域のまつりなどの場で、子供の成長を祈願していませんか？ヨガや武道の類（空手道、合気道、柔道、剣道など）も、【カルト】行為になります。

偶像礼拝や【カルト】行為は、私たちに自覚症状がないほどまでに

しんとう
浸透しています。日本人には、もはや当たり前の文化、伝統、いわゆる“日本・日本人の心”というものです。

(特に日本には、天皇制があり、天皇を日本国の象徴としています。天皇=神という教育により、天皇のために、お國のために命を捧げた人々がどれだけいたでしょうか? そんな天皇制も、今や後継者がおらず(男子が生れず)どのように存続させていくのか社会問題になっています。神は、人間一人一人を平等につくられました。決して一人の人間が象徴として崇められることをお許しになりません。神の意に反した“日本人の心”が変わること…それにより、皇族のみなさんにも眞の神に祝福される人生を歩んでいただきたいと切に願います。)

また、神など信じないと言う無神論者は、ただ自分が“神”になっているだけの自分偶像礼拝です。

占いや風水で、自分の悩みが解決できると思っている人も、イエス様以外のものに頼って、その結果、またはその答えを偶像礼拝しているので、【カルト】です。よく考えてみて下さい。占う人(占い師、靈媒師)、風水師が変われば答えは様々であり、なんの根拠もないものです。

そして、一般的にはキリスト教としてひとくくりにされてしまっていますが、イエス様の母として用いられた人間マリアを神格化している<カトリック>は、マリア偶像礼拝、またバチカン・ローマ法王偶像礼拝です。また、教会を建造物として偶像礼拝しています。日本の寺、神社と同じです。日本には、このカトリックの教えが先に伝わり、日本の、日本人の宗教心(偶像礼拝)に入り込みやすかったがために根付いてしまったことが、後に伝えられたプロテスタントの教え、唯一の神の御子イエス・キリストにストレートに目を向けさせない大障害(サタンの策略)となっています。

たとえ、イエス様を信じているというクリスチャン<プロテスタント>

であっても、十字架のペンダントをお守りがわりにしたり、家にイエス様の絵を飾ることによって“そこにイエス様がいる”と感じることができると思っているのであれば、仏壇に先祖がいると思うのと同じ偶像礼拝にすぎません。

そして、自分の好きな牧師を選んで教えを聞いたり、牧師に依存して一人で信仰に立つことができないクリスチャンは、土台がイエス様ではなく牧師を偶像礼拝しています。

逆に、「今日のメッセージは自分のためにならなかった。牧師先生に聞いても答えはなさそうだから、自分なりに解決しよう。」と、土台があやふやで、一人よがりの判断や解釈をしているのであれば、自分流の宗教(カルト)を作り上げていることになります。

マタイによる福音書7章21節～23節

【わたし(イエス様)にむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。その日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ。】

マタイによる福音書15章8節～9節

【『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる』。】

このように、人間は高ぶって自分の判断でイエス様以外のものや人、あるいは自分自身を神にして生きることを選んできたのですから、神の怒りにふれるのは当然なのです。

そして、【カルト】にとらわれている人々は、自身がそれによって圧迫と束縛を受けていることに気づいているでしょうか？
たとえば、以下の症状に苦しんでいませんか？

うつ病、冷淡、無責任、突拍子もない行動、妄想、自己の世界への陶酔、特定のものや人への執着心（アイドルの追っかけ、○○オタク）、突然の眠気、押さえがたい情欲、拒食・過食症、偏食（好き嫌い、すべてにタバコや辛子をかけるなど）、性的倒錯（同性愛、男装、女装、おねえ系）、性同一性障害（性転換）、麻薬・アルコール・ニコチンによる中毒症状、慢性の恐怖や不安、神経過敏、ひどく神経質な行動、強迫観念、力量不足感、自己暗示、自己憐憫、注目を浴びることへの異常な執着や異常な饒舌（特に芸能関係者に多い）、極端に消極的な性格、抑えがたい衝動（うそ、盗み、ギャンブル）、自己の壊す（リストカット、刺青などの自虐行為）、騒がしさ、独語癖（独り言を言う）、排他性、人を避ける（ひきこもり）、認知症（コミュニケーションができない）、片づけができない・汚れに気づかない・汚れることが平気になっていく（ごみ屋敷）、ペットへの溺愛と異常な扱い方（人間同様に）など、“現代病”や“社会現象”にもつながるようなあらわれはないですか？

また、不機嫌になったり、乱れた服装（露出の多い服、ドクロの

えがら、ぜんしんくろづ、いじょう、ひかめ、じやあく、絵柄、全身黒尽くめ）、異常にぎらぎらと光る目や、邪惡あるいは挑戦的な顔つき（喧嘩、いじめにつながる）になっていませんか？

昔から、聖書のみことばに反する独自の宗教心、キリストや聖靈を受け入れたくない思い、イエス・キリストの血に対する嫌悪感、神への冒涜的思いを持っていませんか？

クリスチャンと名乗っていても、目に見えない靈的なことや聖書のみことば、祈りに対する無関心、慢性的な疑い（不信仰）、信仰の実践が困難ではないですか？祈っても治療効果の現れない慢性的な身体の不調（原因不明の病、例えば更年期障害）や、深刻な結婚問題、親子問題、各家庭内の争い、各教会内の争いや不調和はありませんか？

周囲にこのような人たちがあふれていませんか？日々、次々と新たに耳にする“現代病”、“社会現象”とは何でしょう？これらこそまさに、【カルト】が原因で起こる障害なのです！
これらのものは、眞の神からはきません！すべて、偽の神々を信じた結果、起こるものです。また、眞の神がイエス様であることを知っていても、真理（聖書）に忠実に従ってこなかったがために、いつの間にかカルトに陥ってしまっていたクリスチャンも、真理を知らないこの世の人と同じ結果を招くことになるのです。

コ林ト人への第2の手紙13章8節
【わたしたちは、真理（イエス様）に逆らっては何をする力もなく、真理にしたがえば力がある。】

かみ　いか　さん　よんだい　およ <神の怒りは三、四代に及ぶ>

しんめい　き　しょう　せつ　せつ
申命記5章7節～10節

【あなたはわたしのほかに何ものをも神としてはならない。
あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。上は天にある
もの、下は地にあるもの、また地の下の水の中にあるものの、どの
ような形をも造ってはならない。それを拝んではならない。また
それに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ
神であるから、わたしを憎むものには、父の罪を子に報いて三、
四代に及ぼし、わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には恵みを
施して千代に至るであろう。】

かみ　あい　にんげん　じしん　かんしゃ　わす　たか　きざ
神は、愛してつくった人間がご自身への感謝を忘れて高ぶり、刻んだ
ぐうぞう　つか　おが
偶像をつくってそれに仕え、拝んでいることをねたされました。

そして、その報いを三、四代に及ぼすとおっしゃっています。
たとえ、今生きている本人と、先祖との間に信仰（宗教心）の度合い
ちが　つみ　おも　か　かみ　め
の違いがあったとしても、その罪の重さは変わりません。神が目を
む　せんぞ　だいだい　みやくみやく　う　まこと　かみ
向けておられるのは、先祖代々、脈々と受け継がれている眞の神
たい　うらぎ　ち
に対しての裏切りの「血」なのです！

ひがしにほんだいしんさい　げんいん <東日本大震災の原因>

さん　よんだい　およ　つみ　むく　もっと　わ
三、四代に及ぶ罪の報いが最も分かりやすくあらわれたのが、

2011年3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震でした。

こんかい　さいがい　たい　せいしょ　つぎ　よげん
今回の災害に対して、聖書に次のように預言されていました。

マタイによる福音書24章15節～21節

よげんしや　い　あら　にく　もの　せい　ばしょ
【預言者ダニエルによって言われた荒す憎むべき者が、聖なる場所
た　み　どくしゃ　さと　ひとびと
に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々
やま　に　おくじょう　もの　いえ　と　だ
は山へ逃げよ。屋上にいる者は、家からものを取り出そうとして
した　はたけ　もの　うわぎ　と
下におりるな。畠にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。その
ひ　み　おも　おんな　ち　の　ご　おんな　ふこう
日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。あなた
に　ふゆ　あんそくにち　いの
がたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。その
とき　よ　はじ　げんざい　いた　こんご
時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もない
おお　かんなん　おこ　ような大きな患難が起るからである。】

エレミヤ書9章20節～22節

おんな　しゅ　ことば　き　みみ　くち　ことば
【女たちよ、主の言葉を開け。あなたがたの耳に、その口の言葉
をいれよ。あなたがたの娘に悲しみの歌を教え、おのおのその隣り
びと　あいとう　うた　おし　し　まど　のぼ　き
人に哀悼の歌を教えよ。死がわれわれの窓に上って来、われわれ
でいたく　なか　こ　た　ひろば
の邸宅の中にはいり、ちまたにいる子どもを絶やし、広場にい
る若い人たちを殺そうとしているからだ。あなたはこう言いなさい、
しゅ　い　ひと　したい　ふんど　の　たお
「主は言われる、『人の死体が糞土のように、野に倒れているよう
なり、また刈入れする人のうしろに残って、だれも集めることを
しない束のようになる』。】

「荒す憎むべき者」とは津波のことです。

3月11日に起きたことは、決して“想定外”ではありませんでした。ただ、眞の神に従ってこなかった人間に、それを知る知識がなかっただけなのです。「どうしてこんなことになるの？」「何も悪いことなどしていないのなぜ？」と、誰もが聞いたかった答えが、聖書にははっきりと書かれてあります。福島の人々が放射能の被害にあい、先祖も知らない地に行かなければならなくなることも、聖書はすでに預言していました。

【主がわれわれにこの大きな災を宣告されるのはどうですか。われわれにどんな悪い所があるのですか。われわれの神、主にそむいて、われわれが犯した罪とはなんですか】
……中略……

『主は仰せられる、それはあなたがたの先祖がわたし（眞の神）を捨てて他の神々に従い、これに仕え、これを拝し、またわたしを捨て、わたしの律法（聖書）を守らなかったからである。あなたがたは、あなたがたの先祖よりも、いつそう悪いことをした。見よ、あなたがたはおのれの自分の悪い強情な心に従い、わたしに聞き従うことはしない。それゆえ、わたしはあなたがたをこの地より追い出し、あなたがたも、あなたがたの先祖も知らない地に行かせる。その所であなたがたは昼夜、ほかの神々に仕えるようになる。これはわたしがあなたがたにあわれみを示さないからである』と。】
(エレミヤ書16章10節～13節より)

神はご自身のみことばをそのまま実行されているにすぎません。神は冒頭のみことばで約束されています、「わたしに聞き従う者

は、災いに会う恐れもなく安全だ」と・・・。しかし、聞き従わなかった者、イエス様以外のものや人を偶像礼拝してきた人間に對しては、容赦なく報復を開始されたのです。

エレミヤ書25章4節～7節
【主はたゆまず、そのしもべである預言者を、あなたがたにつかわされたが、あなたがたは聞かずまた耳を傾けて聞こうともしなかった。彼らは言った、『あなたがたはおのれの今その悪の道と悪い行いを捨てなさい。そうすれば主が昔からあなたがたと先祖たちとに与えられた地に永遠に住むことができる。あなたがたは、ほかの神に従って、それに仕え、それを拝んではならない。あなたがたの手で作ったものをもって、わたしを怒らせてはならない。このようなことをしないなら、わたしはあなたがたをそこなうことはない』と。しかしながらあなたがたはわたしに聞き従わず、あなたがたの手で作った物をもって、わたしを怒らせて自ら害を招いたと、主は言われる。】

神は、刻んだ像を造ってはならない、それを拝んではないとおっしゃっています。
今もなお、偶像を拝み、仏教や神道のやり方で、あるいは自分のやり方で供養を続いている人々がたくさんいらっしゃいますが、日本人が祈り、怒りを鎮めなければならない相手、悔い改めなければならない相手は、宗教やカルトによって生み出された偽の神々ではありません！
日本人は、眞の神・イエス様に悔い改めなければならないのです！！

しとぎょうでん しょう せつ せつ せつ
使徒行伝 17章29節～30節

【このように、われわれは神の子孫なのであるから、神たる者を、
人間の技巧や空想で金や銀や石などに彫り付けたものと同じと、
見なすべきではない。神は、このような無知の時代を、これまで
見過ごしにされていたが、今はどこにおる人でも、みな悔い改め
なければならないことを命じておられる。】

こんかい とうほく にほんじん つみ く あらた
今回は東北でした…しかし、日本人が罪を悔い改めないかぎり、
神の報復は続きます。それがどこに行われるのか、どんななさり方
をされるのか、私たち人間には知る由もありません。それが神が
支配されている自然界なのです。

しょ しょう せつ せつ
エレミヤ書4章19節～28節

【ああ、わがはらわたよ、わがはらわたよ、わたしは苦しみにもだ
える。ああ、わが心臓の壁よ、わたしの心臓は、はげしく鼓動する。
わたしは沈黙を守ることができない、ラッパの声と、戦いの叫び
を聞くからである。破壊に次ぐに破壊があり、全地は荒され、
わたしの天幕はにわかに破られ、わたしの幕はたちまち破られた。
いつまでわたしは旗を見、またラッパの声を聞かなければならぬ
のか。「わたしの民は愚かであって、わたしを知らない。彼らは
愚鈍な子どもで、悟ることがない。彼らは悪を行うのにさとい
けれども、善を行うことを知らない」。

わたしは地を見たが、それは形がなく、またむなしかった。天を
あおいだが、そこには光がなかった。わたしは山を見たが、みな
震え、もろもろの丘は動いていた。わたしは見たが、人はひとり
もおらず、空の鳥はみな飛び去っていた。わたしは見たが、豊かな

ち あ ち まち しゅ まえ はげ いか
地は荒れ地となり、そのすべての町は、主の前に、その激しい怒りの
前に、破壊されていた。それは主がこう言われたからだ、「全地は
荒れ地となる。しかしあたしはことごとくはこれを滅ぼさない。
このために地は悲しみ、上なる天は暗くなる。わたしがすでにこれ
を言い、これを定めたからだ。わたしは悔いない、またそれをする
ことをやめない。】

しょ しょう せつ せつ
エレミヤ書16章19節～21節

【主、わが力、わが城、悩みの時の、のがれ場よ、万国の民は地
の果からあなたのものとにきて申します、「われわれの先祖が受け
嗣いだのは、ただ偽りと、役に立たないつまらない事ばかりです。
人が自分で神々を造ることができましょうか。そういうものは神
ではありません」。

「それゆえ、見よ、わたしは彼らに知らせよう。すなわち、この際
わたしの力と、わたしの勢いとを知らせよう。彼らはわたしの名が、
主であることを知るようになる。】

＜イエス様の血の力＞

この三、四代に及ぶと定められている神の報復を断ち切り、許しを得るためにには、イエス・キリストを救い主として受け入れ、イエス様が十字架上で流された血によってきよめられるしかありません。

ヨハネの第1の手紙1章7節～9節

【しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにはない。もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は眞実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。】

エペソ人への手紙1章7節

【わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。】

イエス様は、十字架にかかり、血を流すことによって、神と私たち人間を和解させてくださいました。今後、すべての偶像を捨て去り、イエス様を救い主として受け入れ信じる者は、決して神の怒りによって滅びることがないように、神と私たち人間の間の仲保者となり、契約を結んでくださったのです。【血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。】(ヘブル人への手紙9章22節b)

と聖書に書かれてある通り、先祖代々、脈々と受け継がれてきた真の神に対しての裏切りの血は、純粋な汚れのないイエス様の血でしか洗いきよめることができません。イエス様は、私たち人間の命(血)のために、ご自身の命(血)を捧げられました。なぜなら、命は血の中にあるからです。(これが、新約聖書に書かれていることです。旧約聖書における「過越」に由来します。)

レビ記17章11節

【肉の命は血にあるからである。あなたがたの魂のために祭壇の上で、あがないをするため、わたしはこれをあなたがたに与えた。血は命であるゆえに、あがなうことができるからである。】

コロサイ人への手紙1章19節～20節

【神は、御旨によって、御子のうちにすべての満ちみちた徳を宿らせ、そして、その十字架の血によって平和をつくり、万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく、彼によってご自分と和解させて下さったのである。】

テモテへの第1の手紙2章5節

【神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。】

そして、十字架上で流された血は、私たち人間が先祖代々犯してきたすべての罪をきよめるだけではなく、すべての災害と病気から守ってくれる力あるものです。震災によって、放射能の害で

苦しんでおられる方がたくさんいらっしゃいますが、イエス様の血は、人間が太刀打ちできない放射能からも守ってくださいます。

エレミヤ書3章6節

【見よ、わたしは健康と、いやしとを、ここにもたらして人々をいやし、豊かな繁栄と安全とを彼らに示す。】

マルコによる福音書16章17節～18節

【信じる者には、このようななししが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる。】

ルカによる福音書10章19節

【わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あなたがたに害をおよぼす者はまったく無いであろう。】

イザヤ書5章5節b

【彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与える、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。】

ヨハネによる福音書16章33節

【これらのことあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。】

<神の愛を見えなくさせる人間の情>

聖書には、天国に入れる人数が書かれてあります。

ヨハネの黙示録14章1節～3節

【なお、わたしが見ていると、見よ、小羊（イエス・キリスト）がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人が小羊とともに、その額に小羊の名とその父の名（神・天の父）とが書かれていた。またわたしは、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような声が、天から出るのを聞いた。わたしの聞いたその声は、琴をひく人が立琴をひく音のようでもあった。彼らは、御座の前、四つの生き物と長老たちとの前で、新しい歌を歌った。この歌は、地からあがなわれた十四万四千人のほかは、だれも学ぶことができなかった。】

14万4千人…これが神の目から見た靈的な数字なのか、それとも実際の数字をあらわすのかは、私たちには分かりませんが、約70億人の世界人口から見ても、天国に入る門がいかに狭いかはよく分かります。

マタイによる福音書7章13節～14節

【狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいって行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。】

マタイによる福音書22章14節
【招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない。】

では、この14万4千人はどのような人々なのか…聖書にはそのことについてもはっきりと書かれてあります。

ヨハネの黙示録14章4節～5節
【彼らは、女にふれたことのない者である。彼らは、純潔な者である。そして、小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。】

この女とは、神の愛よりも、人間愛・人間の情がすばらしいと教えている悪霊です。特に、仏教の国・日本は、この情を頭とさせようとする靈力におおわれています。

故人を忘れない、悲しみを忘れないという精神が仏教制度という土台の中でしっかりと根付いていますし、情の深い人=人間味のある人は、“善良な人”として称賛されます。

しかし、その人間愛・人間の情は、自分の思い通りにならなかったり裏切られた途端、態度は一変し、『目には目を、歯には歯を』をしたくなります。“私はこの人にこれだけの愛を注いであげた！”と思っている分だけ、反動で恨みと憎しみ、裁きが生まれるのです。本当の愛（神の愛）がなければ、まるでオセロの駒が白（情）から黒（裁き）に変わるほど、人間の愛・情には裏表があります。聖書ではこのような人間を、「偽善者」と呼んでいます。

まこと 真のクリスチヤンでない限り、この世で生きている限り、必ず かぎ よ い かぎ かなら こころあ おも 心当たりのことだと思いますが、いかがですか？

エレミヤ書17章9節～10節

【心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく惡に染まって し いる。だれがこれを、よく知ることができようか。「主である わたしは心を探り、思いを試みる。おののに、その道にしたがい、 みち その行いの実によって報いをするためである。】

たましいこころ かんじょう はたら にんげんあい にんげん じょう ひてい 魂（心・感情）に働きかける人間愛、人間の情を否定するつもり はりませんが、私たち人間には、神というお方を知るために与え わたし にんげん かみ かた し あた られた『靈』があります。人間愛・人間の情は、相手の魂に寄り そ 添うことはできても、相手が求めている真の解決=靈を立たせる ちから にんげん れい じぶん ごぞんじ 力はありません。人間の『靈』は、自分のことをすべて御存知で ある神の愛、神の情を求めているのです。
にんげん あ まえ たましいいたましい にんげん じょう かしら 人間は当たり前のように、魂対魂で、人間愛・人間の情を頭 ほんとう じぶん れい かいほう に生きてきましたが、それによって本当の自分=『靈』を解放する だいじ み 大事なものが見えなくなるという、サタン（悪霊の親分）の策略 かみ にんげん たい いか にまんまとかってきました。神はそんな人間に對して怒っておられるのです。

神の愛について、聖書には次のように書かれています。

コ林ント人への第1の手紙13章4節～8節a

【愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は たか ほこ ぶさほう じぶん りえき もと 高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めるない、

いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。
そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。愛はいつまでも絶えることがない。】

そして、神の愛の象徴こそ、神が私たち人類の救いのために地上に送ってくださった、神の御子イエス・キリストなのです。
イエス様は、あなた自身のこの世での苦しみ、悩み、痛み、何より三、四代に渡る血の中にある呪い祟りを、すべて背負って十字架についてくださいました。さらに本来は、私たち人間一人一人が、神に対して犯した偶像礼拝と高ぶりの罪のゆえに十字架にかかりなければならなかったのに、あなたの代わりに十字架にかかり、あなたの罪の許しを請け負ってくださいました。

イザヤ書5章3章4節～6節
【まことに彼（イエス・キリスト）はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与えて、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。われわれはみな羊のように迷って、おののおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。】

私たち人間に分かるように、約2000年前にイエス・キリストを地上に送り、神がご自身の存在をこの世にあらわしてくださいました。この地上でなされたイエス・キリストの偉大な御業、

神の愛に目を背けて生きている人間は、皆、神に対して罪を犯しているのです。約2000年前の外国の出来事ではなく、地球上の全人類、私たち日本人のためにも！なされたことなのです。

ヨハネによる福音書3章16節～21節
【神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。】

じょう <情にまかれているクリスチャンへの警告>

イエス様を受け入れたクリスチャンは、表は神の愛、裏返しても無条件の許しでなければなりません。【きよい人には、すべてのものがきよい。】（テトスへの手紙1章15節a）と書かれてある通り、裏表のない人=真理（聖書の言葉）を体験・体得している真のクリスチャンは、どう関わっても清い・聖い白なのです。

じょう
情にまかれていれば、神の愛に立つどころか、神の愛を体験・
たいとく
体得することさえできません。相手の顔色をうかがい、相手を傷つけ
ないように、機嫌を損ねないように神のみことばを語っていては、
かみ
神の怒りと報復をまねいている人を救うことなどできません。
かみ
「神は愛」であることばかりを福音し、義理人情にまかれて「神は
さばぬし
裁き主」でもあることを伝えずにきたクリスチャンがどれだけ
いるでしょうか？

マタイによる福音書23章13節

【偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。あなたがたは、天国を閉ざして人々をはいらせない。自分もはいらないし、はいろうとする人をはいらせもしない。】

また、キリスト教、仏教、イスラム教が手を取り合って平和を祈る？ような近年の社会現象！そのようなことを神が許されるでしょうか？クリスチャンの内にある偽善の思いが、どれだけ眞の神・主イエス様をあざけり、偽の神々に仕える者にもあざけられていることでしょう。

ひとり 真理は1つだけ！眞の神は、イエス・キリストお一人だけです！

じょう
情によって眞の神も偽の神々も同等においている人間（クリスチャン）は、次ののみことばに当てはまる者です。キリストの僕ではない、なまぬるいと、はっきり書かれてあります。

びと ガラテヤ人への手紙1章10節

【今わたしは、人に喜ばれようとしているのか、それとも、神に喜ばれようとしているのか。あるいは、人の歓心を買おうと努めているのか。もし、今もなお人の歓心を買おうとしているとすれば、わたしはキリストの僕ではあるまい。】

ヨハネの黙示録3章15節～16節

【わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるので、あなたを口から吐き出そう。】

＜神の守りの中に入る＞

私たちくぶどうの木は、聖書のすべてのみことばを愛し、信じ、神の愛をもって皆さんに伝えます。

次の告白の祈りを通して、眞の神・イエス様に、この時まで偽の神々を拝み仕えてきたことを悔い改めてください。それは、神の側から見れば、たとえどんな理由があったにせよ、人間の高ぶりの罪となるのです。意志を向けて「ごめなんさい」と言うことで、あなたが三、四代に渡って受けてきた災い、これから受けるはずであった災いから逃れることができ、神の御手の中で守られるでしょう。

エレミヤ書2章35節

【あなたは言う、『わたしは罪がない。彼の怒りは、決してわたしに臨むことがない』と。あなたが『わたしは罪を犯さなかった』と言うことによって、わたしはあなたをさばく。】

マルコによる福音書1章15節

【時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ。】

マタイによる福音書11章28節

【すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。】

イエス・キリストと助け主=聖霊を受け入れる（主への告白の祈り）

声に出して読んでください。

「愛する天のお父様、イエス様。私がこれまで犯してきたすべての罪をお許しください。あなた以外の偽の神々に仕え、偶像礼拝をしてきたこと、それによって神の愛が見えなくなっていたことを悔い改めます。イエス様が、私の罪のために十字架にかかる死んでくださり、3日目に神が死人の中からイエス様をよみがえらせたことを信じます。イエス様、どうぞ私の中に入ってください。私の全身を、イエス様の血によって清めてください。そして、私を災いから守り、これから的人生を平安に送ることができるよう導いてください。また、私に聖霊と火によってバプテスマ（洗礼）を授けてください。私の全身を聖霊で満たしてください。たった今、聖霊をいただけたと信じます。そして異言（眞の神と会話できる言葉）もください。いただいたと信じ、舌を動かします。（ラララララ…と声を出して舌を動かしてください。それが、あなたの異言です。）

イエス様、ありがとうございます。あなたがおっしゃる通り、私はこれから聖書のすべてのみことばに従って生き、書かれてあるしと奇跡を行い、異言を語ります。すべての栄光はイエス様に帰して、感謝して祈ります。アーメン。」

※「アーメン」とは、“そうなったと信じます”という意味です。

イエス様を受け入れた皆さんの上に、次のみことばが成就することを祈っています。

ヨハネによる福音書1章12節～13節

【しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生まれたのである。】

エレミヤ書29章11節～14節

【主は言われる、わたしがあなたがたに対していだいている計画はわたし知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。その時、あなたがたはわたしに呼ばわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなたがたの祈を聞く。あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあなたがたに会うと主は言われる。わたしはあなたがたの繁栄を回復し、あなたがたを万国から、すべてわたしがあなたがたを追いやった所から集め、かつ、わたしがあなたがたを捕われ離れさせたそのもとの所に、あなたがたを導き帰ろうと主は言われる。】

エレミヤ書7章23節

【ただわたしはこの戒めを彼らに与えて言った、『わたしの声に聞きしたがいなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。わたしがあなたがたに命じるすべての道を歩んで幸を得なさい』と。】

そして、被災地の皆さん、特に福島の皆さんも希望をもってください！神にはできないことはありません。皆が眞の神・イエス様に悔い改め、救い主として受け入れたのであれば、必ず神は被災地、放射能におかされた地を、すみやかにもとの地に戻してくださいと聖書で約束してくださっています。そこに必要なのは、眞の神・イエス様への信仰（信頼）と、イエス様が十字架上で流された“血の力を行使すること”です！

エレミヤ書33章6節～11節

【見よ、わたしは健康と、いやしとを、ここにもたらして人々をいやし、豊かな繁栄と安全とを彼らに示す。わたしはユダとイスラエル（被災地）を再び栄えさせ、彼らを建てて、もとのようにする。わたしは彼らがわたしに向かって犯した罪のすべてのとがを清め、彼らがわたしに向かって犯した罪と反逆のすべてのとがをゆるす。この町は地のもろもろの民の前に、わたしのために喜びの名となり、誉となり、栄えとなる。彼らはわたしがわたしの民に施すもろもろの恵みのことを聞く。そして、わたしがこの町に施すもろもろの恵みと、もろもろの繁栄のために恐れて身をふるわす。主はこう言われる、あなたがたが、『それは荒れて、人もおらず獣もない』というこの所、すなわち、荒れて、人もおらず住む者もなく、獣もないユダの町とエルサレムのちまたに、再び喜びの声、楽しみの声、花婿の声、花嫁の声、および『万軍の主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみは、いつまでも絶えることがない』といって、感謝の供え物を主の宮に携えてくる者の声が聞える。それは、わたしがこの地を再び栄えさせて初めのようにするからであると主は言われる。】

＜聖書を信じていない皆さんへ＞

ここまで、聖書に基いてお伝えしてきましたが、聖書そのものを信じていないと言う方もいらっしゃるでしょう。聖書を信じるも信じないも、その人の自由です。神は意志まではとられません。しかし聖書には、次のように書かれていることをお伝えしておきます。

ローマ人への手紙9章15節～18節

【わたしは自分のあわれもうとする者をあわれみ、いつくしもうとする者を、いつくしむ】。ゆえに、それは人間の意志や努力によるのではなく、ただ神のあわれみによるのである。聖書はパロにこう言っている、「わたしがあなたを立てたのは、この事のためである。すなわち、あなたによってわたしの力をあらわし、また、わたしの名が全世界に言いひろめられるためである」。だから、神はそのあわれもうと思う者をあわれみ、かたくなにしようと思う者を、かたくなになさるのである。】

神はあわれもうとする者に、ご自身をあらわし、聖書を通して必要な一切を満たしてくださいます。そして、かたくなにしようとする者は、かたくなになさる…あなたは、神によってかたくなにされた側の人間ですか？？神の報復は、神の声（聖書）に聞き従わない者の上に下るでしょう。

ヨハネによる福音書3章36節

【御子を信じる者は、永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命に

あづかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである。】

テサロニケ人への第2の手紙1章7節～9節

【それは、主イエスが炎の中で力ある天使たちを率いて天から現れる時に実現する。その時、主は神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者たちに報復し、そして、彼らは主のみ顔とその力の栄光から退けられて、永遠の滅びに至る刑罰を受けるであろう。】

ヨブ記4章20節～21節

【彼らは朝から夕までの間に打ち碎かれ、顧みる者もなく、永遠に滅びる。もしその天幕の綱が彼らのうちに取り去られるなら、ついに悟ることもなく、死にうせるではないか。】

イザヤ書6章2節

【主は言われる、「わが手はすべてこれらの物を造った。これらの物はことごとくわたしのものである。しかし、わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である。】

<世の終わりが近い>

聖書の中で、イエス様が終わりの日の前兆について弟子に語つておられる箇所があります。

マタイによる福音書24章3節～14節

【またオリブ山で（イエス様が）すわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか。】

そこでイエスは答えて言られた、「人に惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリスト（救い主）だと言って、多くの人を惑わすであろう。また、戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起らねばならないが、まだ終りではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう。しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。また不法がはじるので、多くの人の愛が冷えるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そしてこの御国福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が來るのである。】

まさに今の時代に起きていることだと思いませんか？神は、イエス・キリストの再臨をもって、この地上を終わらせようとしておられます。冒頭でもお伝えした通り、聖書は作り話ではなく、すべて神が愛する人間に与えたメッセージであり、聖書に書かれてあることは確実に実行されていきます。

世の終わりの前兆を迎えている今、私たちくぶどうの木は、日本人が知識がないために滅ぼされることのないように！と祈ります。そして、この日本が聖書（=真の神）を知る知識を得て、神に喜ばれ、祝福を受けるにふさわしいクリスチヤンの国に生まれ変わったことを感謝します。

<最後に…>

いかしゅうきょう
以下の宗教、カルト教団に属している人間は、神の怒り、報復を
受けます！

ぶつきょう
佛教、神道、イスラム教、天理教、創価学会、生長の家、真光教、
しんじょえん
真如苑、幸福の科学をはじめ、新興宗教の数々は全て違います。
ながねん
長年に渡り、家族（一族）で信仰してきた歴史には、何の力も
ありませんでした。たとえ、あなたの心の癒し・なぐさめになつて
いたとしても、眞の問題解決、眞の救い、神の“力”はないのです。
また、教祖（人間）が存在する宗教、教団や、その教祖が死者
との対話をを行っていたり（カルト）、祈りを聞いてもらうためや、
かいきゅう
階級をあげるためにお金が必要であつたり（商売）、売名行為を
めあ
目当てにしているもの、独自の聖書や本=独自の教えをつくって
いる宗教、教団は、眞の神に忌み嫌われており、そこを支配して
いるのはサタン（悪霊）でしかありません！

びと
コリント人への第2の手紙1章13節～15節
ひとびと
【こういう人々はにせ使徒、人をだます働き人であつて、キリスト
の使徒に擬装しているにすぎないからである。しかし、驚くには
及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから。だから、たとい
サタンの手下どもが、義の奉仕者のように擬装したとしても、
ふしき
不思議ではない。彼らの最期は、そのしわざに合ったものとなろう。】

じときょうでん
使徒行伝4章12節
ひと
【この人（イエス・キリスト）による以外に救はない。わたしたちを

すぐ救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられて
いないからである。】

そして、エホバの証人、統一教会、モルモン教はクリスチャン
(キリスト教)と名乗っていますが、全くの偽物、異端です。
サタンがキリスト教界に混乱を来たさすために、つくりあげた
【カルト】です。

まこと
眞の神・イエス様を信じるクリスチャンは、すべての栄光をイエス様
に帰します。決して、神は一人の人間（教祖、牧師などの指導者）
が注目を浴びたり、高ぶったり、周りがその人に栄光を帰すような
ことはさせません。先に述べたように、神は“ねたむ神”だから
です。

しょ
エレミヤ書9章23節～24節
【主はこう言われる、「知恵ある人はその知恵を誇ってはならない。
ちから
力ある人はその力を誇ってはならない。富める者はその富を誇って
はならない。誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さとくあって、
わたしを知っていること、わたしが主であつて、地に、いくつしみ
と公平と正義を行つている者であることを知ることがそれである。
わたしはこれらの事を喜ぶと、主は言われる。】

ふくいんしょ
マタイによる福音書23章11節～12節
【そこで、あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人で
なければならぬ。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を
ひく
低くする者は高くされるであろう。】

神はいつも、あなたの心がどこにあるのかを見ておられます。神のひとり子であり、全人類のために実際に十字架についてくださったイエス様だけが、栄光を受けることを神に許されています。それに背いてこれらの宗教をつくりあげ、自分が神になって栄光を受けている者、さらには、神へのとりつき、とりなし、仏の為と称し、金儲け（商売）をしている者、たとえそれらの者に騙されただとしても、偽の神々を信じている人々への神の報復はどれほどのものでしょうか…神を恐れ、今すぐ悔い改めて真の神に立ち返ることを警告します！

カトリックの皆さんへ…

聖書は、マリア（様）を証しているものではなく、十字架にかかって尊い血を流してくださったイエス様を証しているものです。それ以上でもそれ以下でもありません。聖書を誇大解釈（妄想・占いの靈）して、人間マリアを神格化して偶像礼拝していても、神の“力”はありません。マリアは私たちと同じ人間であり、カトリック教会のつくりあげた“聖人”も、どこまでも人間にすぎず、イエス様と同等に位置づけられるものではありません。イエス様お一人だけが眞の神として栄光を受けるべきお方です。聖霊もイエス様にのみ栄光を得させられます。（ヨハネによる福音書16章13節～15節）

カトリックの皆さんのがその真理に立ち返り、悪霊の存在と、その策略・聖霊への眞の知識・イエス様の血の力を知って、それを行使する神の“力”をもった眞のクリスチャンになられることを切に祈ります。そして、肉において一心に神に仕えてきたカトリックの

皆さんのが、さらに聖霊によって、靈においても力が増し加わり、私たちと1つになれたことを感謝します。

※コロサイ人への手紙2章、テモテへの第1の手紙4章を参照してください。

プロテスタントの皆さんへ…

【悪い実のなる良い木はないし、また良い実のなる悪い木もない。木はそれぞれ、その実でわかる。】（ルカによる福音書6章43節～44節a）と聖書に書かれてある通り、眞のクリスチャンには、良い実=眞の神・イエス様の力と、生きておられる神と共にすることを証明する『証』があります。もし、それが与えられていないのであれば、自称クリスチャンにすぎず、神の守りの中にはいません。【神の国は言葉ではなく、力である。】（コリスト人への第1の手紙4章20節）だからです。そんなあなたに、神は何度も間違いを示し、語りかけておられるはずです。神はあわれみ深い方です。あなたは、その声を聞くことができていますか？間違いを悟り、悔い改めましたか？気づかないまま歩いても、忠告を無視してひとりよがりで進んでも、行き着く先は地獄です。

使徒行伝28章26節～29節
【この民に行って言え、あなたがたは聞くには聞くが、決して悟らない。見るには見るが、決して認めない。この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがない

ためである』。そこで、あなたがたは知つておくがよい。神のこの
救の言葉は、異邦人に送られたのだ。彼らは、これに聞きしたがう
であろう』。[パウロがこれらのことと述べ終ると、ユダヤ人らは、
互に論じ合ひながら帰つて行った。】

もう一度、聖書のみことばに戻り、神の御旨を行ふ者とならなければ、せっかくイエス様が眞の神であることを知つたにもかかわらず、あなたは眞の神・イエス様を信じない者と同じく、いや、それ以上の神の報復を受け、滅びる者となることを警告します！

マタイによる福音書23章37節～39節

【ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。わたしは言っておく、『主の御名によってきたる者に、祝福あれ』とおまえたちが言う時までは、今後ふたたび、わたしに会うことはないであろう。】

イザヤ書59章1節～8節

【見よ、主の手が短くて、救い得ないのでないではない。その耳が鈍くて聞き得ないのでない。ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおつたために、お聞きにならないのだ。あなたがたの手は血で汚れ、あなたがたの指は不義で汚れ、あなたがたのくちびる

は偽りを語り、あなたがたの舌は悪をささやき、ひとりも正義をもって訴え、眞実をもって論争する者がない。彼らはむなしきことを頼み、偽りを語り、害悪をはらみ、不義を産む。彼らはまむしの卵をかえし、くもの巣を織る。その卵を食べる者は死ぬ。卵が踏まれると破れて毒蛇を出す。その織る物は着物とならない。その造る物をもって身をおおうことができない。彼らのわざは不義のわざであり、彼らの手には暴虐の行いがある。彼らの足は悪に走り、罪のない血を流すことに速い。彼らの思いは不義の思いであり、荒廃と滅亡とがその道にある。彼らは平和の道を知らず、その行く道には公平がない。彼らはその道を曲げた。すべてこれを歩む者は平和を知らない。】

詩篇 115 篇

【主よ、栄光をわれらにではなく、われらにではなく、あなたの
いつくしみと、まこととのゆえに、ただ、み名にのみ帰してください。
なにゆえ、もろもろの国民は言うのでしょうか、「彼らの神は
どこにいるのか」と。

われらの神は天にいらせられる。神はみこころにかなうすべての
事を行われる。彼らの偶像はしろがねと、こがねで、人の手のわざ
である。それは口があっても語ることができない。目があっても
見ることができない。耳があっても聞くことができない。鼻があって
もかぐことができない。手があっても取ることができない。足が
あっても歩くことができない。また、のどから声を出すことも
できない。これを造る者と、これに信頼する者とはみな、これと
等しい者になる。

イスラエルよ、主に信頼せよ。主は彼らの助け、また彼らの盾である。アロンの家よ、主に信頼せよ。主は彼らの助け、また彼らの盾である。主を恐れる者よ、主に信頼せよ。主は彼らの助け、また彼らの盾である。主はわれらをみこころにとめられた。主はわれらを恵み、イスラエルの家を恵み、アロンの家を恵み、また、小さい者も、大いなる者も、主を恐れる者を恵まれる。

どうか、主があなたがたを増し加え、あなたがたと、あなたがたの子孫とを増し加えられるように。天地を造られた主によってあなたがたが恵まれるように。天は主の天である。しかし地は人の子らに与えられた。死んだ者も、音なき所に下る者も、主をほめたたえることはない。しかし、われらは今より、とこしえに至るまで、主をほめまつるであろう。主をほめたたえよ。】

「ぶどうの木」の紹介

わたし き しづおかへんはまつし せいしょ しょ
私たちくぶどうの木>は、静岡県浜松市で、聖書エゼキエル書
34章の預言により集められ、聖書のすべての言葉を愛し、信じ、
じっせん あつ せいしょ ことば あい しん
実践しているクリスチャンの集まりです。

「ぶどうの木」は、一人の婦人が行っていた家庭での聖書勉強会から始まりました。当時はまだ無名の、少人数の小さな集まりでした。しかし、イエス様はおっしゃいました、「小さな始まりを軽んじるな」と…。やがて、人数が増え、家庭集会では納まらなくなりました。2007年9月2日、公共の施設を借りるために、聖書ヨハネによる福音書15章より「ぶどうの木」という名前をいたしました。そこで、新たな場で聖書勉強会を始めることとなりました。その中で、冒頭でお伝えしたみことば【しかし、聖書に書いてあるとおり、「目がまだ見えず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」】である。そして、それを神は、御靈によってわたしたちに啓示して下さったのである。】(コリント人への第一の手紙2章9節~10節a)という通り、今、日本人に必要なことの一切を、『神』は私たちに「啓示」してくださいました。そしてその「啓示」が、以下の冊子①~④にすでに書き留められています。

- ① 「日本人はだまされている」
② 「未来へのプレゼント」(日本語版・韓国語版)
③ 「神の国は力である」
④ 「1つになろうよ！～命の絵本<命の糸に会う本>～トラクト版」

これらの冊子が発行された順番は、私たちくぶどうの木の5年間の歩きであり、助け主=聖霊によって学んだことが集約されています。

この日本という国において、イエス・キリストという救い主⇒神様がおられることを宣べ伝えるためには、まず多くの日本人が仕えてきた仏教の成り立ちを知り、そこにある矛盾と何の力もないこと、①「日本人はだまされている」!!ことを伝えることが必要でした。

その知識を土台に、聖書にはどんなことが書かれてあるのかを知っていただき、未来への最高のプレゼントとなる唯一・眞の神であるイエス様を受け入れることができる冊子②「未来へのプレゼント」をつくりました。イエス様が一人一人にご自身の存在を教え、偶像化されたすでに死んだ神ではなく、今も生きておられる神であることを、助け主=聖霊によって体験させてくださるという信仰のもと、この2冊の冊子をもって、日本全国で福音をしていきました。

その後、この仏教の国、日本で、クリスチャン人口わずか1パーセントという力のない現状を脱却するため、既にクリスチヤンになられている方々が神の“力”を得て躍進できるよう、私たちがイエス様から啓示され、学んだこと（聖霊の力と悪霊の存在）を知っていただく冊子③「神の国は力である」を作成しました。聖書を学び始めてわずか3年の主婦が選ばれ、神の“力”によって書き上げた冊子でした。

そして、神に喜ばれる人間になるための土台は家族・家庭にあることを聖書を通して教えられ、くぶどうの木聖書勉強会の新たな課題として、『家族の在り方』を学んでいくことになりました。まず、くぶどうの木に導かれた一人一人が、今までの自身の家族の在り方を振り返り、聖書の教えを基に正されていきました。さらに、これは私たちだけにとどまらず、今の社会問題に関係していることが分かり、日本人が忘れつつある“家族の絆”にもう一度目を向けていただきたいという思いから、④「1つになろうよ！～命の絵本く命の糸に会う本～トラクト版」を作成するに至りました。

また、くぶどうの木が発足するにあたり、たくさんの韓国人との出会いがありました。近くで遠い国と言わってきた韓国…そんな歴史をイエス様によって新たにするため、韓国と1つになりたい！1つになれると信じて、「未来へのプレゼント」と「1つになろうよ！～命の絵本く命の糸に会う本～トラクト版」の韓国語版を作成し、すでに韓国の人々ともとにも届いています。

そして5冊目となったのがこの冊子です。いかがでしたか…？聖書には、【「眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照すであろう。】（エペソ人への手紙5章14節b）と書かれてあります。日本人は、ずっと裸のまま、真理（神と人間の眞の関係）を知らずに、知らされずに眠らされてきたのです。ですから、日本人には、裸の恥を見られないようにするための神の言・聖書のみことば=着物が身に着いていませんでした。

聖書は、あなたを母の胎内で組み立て、誕生させた神様からのラブレターです。そして、あなたの人生に対するすべての答えと、これから起ることが預言されています。これを知らずに生きることは、何も見えない、何も分からぬ、本当に眠っている状態と同じなのです。だから、あなたに目を覚まして立ち上がってほしい！そうすれば、キリスト（救い主イエス様）があなたを照らし、その人生を正しい道、幸いな道、平安な道に導いてくださることを、どうしてもお伝えしたかったのです。

もちろん、突然「あなたは裸だ！宗教は違う！」と言われても、戸惑うことばかりだと思います。宗教（偽物）と真理（本物）の違いを、ここで理論立てて説明することはできますが、それはどこまでも神学論になってしまふという結論に至りました。やはりこの違いは、実際に体験した人間にしか分からないことだと思います。

是非、あなた自身が体験してください！…結局はそう言う事しかできないのですが、それを体験できるようにするために、まずはイエス・キリストという救い主を信じ、声に出て「イエス様を、私の救い主と信じます。」と告白していただきたいと思います。そして必ず、助け主=聖霊もいただいてください。（32ページの祈りをしてください。）そうすれば、あなた自身には何も変化を感じられなくても、その時に確実に神の守りの中に入ることができます。そのぐらい簡単な、誰にでも平等に与えられるいる神側からの一方的なプレゼントなのです。

クリスチヤンになるということは、決して、宗教（キリスト教=救い主教）をはじめることや、神という哲学や聖書の一連の規則を

受け入れたり、修行をして神を知ることではありません。“救い主であるイエス・キリストを自身の内にお迎えし、住んでいただく”ということ、眞の神がいらっしゃることを認め、その神に従う意志を向けることです。その時必ず、助け主=聖霊があなたを守り、導いてくださいます。そして、このことこそが、宗教ではなく真理なのだ！という真実に、自分自身が気づきはじめ、確信していく中で、あなたはイエス様と一緒に、不動のクリスチヤンになることができるのです。この体験・体得は、自分の“意思”を“意志”に変え、みことば=神の言=イエス様に服従する一日一歩の歩きによって得ることができます。そこには、あなたの過去（生い立ち）や年齢、クリスチヤンになってからの年月は関係ありません。神は“意志”まではとられないお方であるがゆえに、あなたが“意志”を向けるだけなのです！

＜ぶどうの木＞には、冊子の他に、宗教と真理の違いを体験・体得し、救われたことの喜びを書き表している“証”というものが、たくさんありますので、興味のある方は、ぜひホームページやブログを通して読んでいただけたら幸いです。それと共に、冊子の内容もホームページで紹介しています。
①「日本人はだまされている」②「未来へのプレゼント」、③「神の国は力である」、④「1つになろうよ！～命の絵本＜命の糸に会う本＞～トラクト版」を順番に読んでいただくことが、体験・体得への第一歩になります！是非ご一読ください。

「ぶどうの木」ホームページ <http://budounoki92.com/>

現在、<ぶどうの木>は6年目を迎え、30名ほどで活動をしています。人数は少ないですが、一人一人がイエス様から、直接信じざるを得ない体験、そして聖霊による、みことばで裏付けられた証をいただいています。たくさんある宗教（神々）の中から、キリスト教を選んで入信した者は一人もいません。聖書に【あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。】（ヨハネによる福音書15章16節a b）と書かれてある通り、イエス様ご自身が全国から自分の望む者たちを集め来てられたのです。集められたメンバーを見たら、驚かれるかもしれません。なぜなら、本当に壮絶な人生を歩んできた者ばかりだからです。しかし、イエス様は神の“力”をあらわすために、あえて無きに等しい者を選ばれ、私たちを聖さと靈において祝福してくださいました。そして、【イエスは彼らを見つめて言られた、「人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである。】（マルコによる福音書10章27節）と聖書に書かれてある通り、イエス様を信じることによって、180度真反対に変えられた私たちは、日々神の言葉とそれが体験してきたことを喜んで伝えています。自分が本当に体験したからこそ、この事実を大胆に宣べ伝えることができ、また、伝えずにはいられないのです。私たちの内におられるイエス様の愛が、私たちを動かす！これも真理の証のあらわれです。そして、私たちの願いはただ一つ、同じように全世界の人々が真理を知り、イエス・キリストによって皆が一つになることです。イエス様は、【わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。】（ヨハネによる福音書15章12節～13節）とおっしゃいました。戦争、

地震（津波、放射能汚染）、ききん…次は何が起こってくるのか分からず、自分を守るのに精一杯のこの時代、人々の愛は冷えていく一方です。しかし、一つの国で、一つの場所で、たった一人でもイエス様を信じ、聖書の言葉を実践していくクリスチヤンが生まれれば、神はその人を使って、置かれた場所で大きな働きをなさることができます！

聖書には、【終りの時には、わたしの靈をすべての人に注ごう。】（使徒行伝2章17節b）と書かれてあります。まずはこの冊子をご覧になった全ての人が、あなたが！イエス様に選ばれたその一人であることを信じます。そして、たくさんの方々が私たちと同じようないい体験をし、聖書の言葉に従っていった時、互いに愛し合い、世界は一つになると確信しています。

イエス・キリストは生きた神であり、信じる者は決して失望に終わりません。是非、皆さんもこの世から救われ、真の神・イエス様の“力”を体験していただきたいと心から願っています。

最後に聖書からこの言葉を贈ります。

ヨハネの第3の手紙2節

【愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。】

エペソ人への手紙3章17節～19節

【また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより、すべて

の聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。】

イザヤ書6章1節～3節

【主なる神の靈がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ、主の恵みの年とわれわれの神の報復の日とを告げさせ、また、すべての悲しむ者を慰め、シオンの中の悲しむ者に喜びを与えて、灰にかえて冠を与え、悲しみにかえて喜びの油を与え、憂いの心にかえて、さんびの衣を与えさせるためである。こうして、彼らは義のかしの木ととなえられ、主がその栄光をあらわすために植えられた者ととなえられる。】

すべての栄光をイエス様に帰して…
<ぶどうの木>一同より

「ぶどうの木」という名前は、ヨハネによる福音書15章1節～7節よりいただきました。以下全文です。

【わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていよう。枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。】

聖書エゼキエル書34章の預言です。

【主の言葉がわたしに臨んだ、「人の子よ、イスラエルの牧者たちに向かって預言せよ。預言して彼ら牧者に言え、主なる神はこう

い言われる、わざわいなるかな、自分自身を養うイスラエルの牧者。ぼくしゃ
ぼくしゃ む やしな もの 牧者は群れを養うべき者ではないか。ところが、あなたがたは
し ぼう た けおりもの 脂肪を食べ、毛織物をまとい、肥えたものをほふるが、群れを養
わない。あなたがたは弱った者を強くせず、病んでいる者をいや
さず、傷ついた者をつづまず、迷い出た者を引き返らせず、うせた
もの た ぎ かれ てあら おさ かれ ぼくしゃ 者を尋ねず、彼らを手荒く、きびしく治めている。彼らは牧者が
ないために散り、野のもろもろの獣のえじきになる。わが羊は散ら
されている。彼らはもろもろの山と、もろもろの高き丘にさまよい、
わが羊は地の全面に散らされているが、これを捜す者もなく、尋ねる
もの者もない。

それゆえ、牧者よ、主の言葉を聞け。主なる神は言われる、わたしは
い 生きている。わが羊はかすめられ、わが羊は野のもろもろの獣の
えじきとなっているが、その牧者はいない。わが牧者はわが羊を
尋ねない。牧者は自身を養うが、わが羊を養わない。それゆえ
牧者らよ、主の言葉を聞け。主なる神はこう言われる、見よ、わたしは
牧者らの敵となり、わたしの羊を彼らの手に求め、彼らにわたしの
群れを養うことをやめさせ、再び牧者自身を養わせない。また
わが羊を彼らの口から救って、彼らの食物にさせない。

主なる神はこう言われる、見よ、わたしは、わたしみずからわが
羊を尋ねて、これを捜し出す。牧者がその羊の散り去った時、その
羊の群れを捜し出すように、わたしはわが羊を捜し出し、雲と
暗やみの日に散った、すべての所からこれを救う。わたしは彼らを
もろもろの民の中から導き出し、もろもろの国から集めて、彼らの
國に携え入れ、イスラエルの山の上、泉のほとり、また國のうちの
人の住むすべての所でこれを養う。わたしは良き牧場で彼らを
養う。その牧場はイスラエルの高い山にあり、その所で彼らは

良い羊のおりに伏し、イスラエルの山々の上で肥えた牧場で草を
食う。わたしはみずからわが羊を飼い、これを伏せると主なる
神は言われる。わたしは、うせたものを尋ね、迷い出たものを引き
返し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くし、肥えたものと
強いものとは、これを監督する。わたしは公平をもって彼らを養う。
主なる神はこう言われる、あなたがた、わが群れよ、見よ、わたしは
羊と羊との間、雄羊と雄やぎとの間をさばく。あなたがたは良き
牧場で草を食い、その草の残りを足で踏み、また澄んだ水を飲み、
その残りを足で濁すが、これは、あまりのことではないか。わが
羊はあなたがたが、足で踏んだものを食い、あなたがたの足で
濁したもの、飲まなければならないのか。

それゆえ、主なる神はこう彼らに言われる、見よ、わたしは肥えた
羊と、やせた羊との間をさばく。あなたがたは、わきと肩とをもって
お つ の 押し、角をもって、すべて弱い者を突き、ついに彼らを外に追い
散らした。それゆえ、わたしはわが群れを助けて、再びかすめ
させず、羊と羊との間をさばく。わたしは彼らの上にひとりの牧者
を立てる。すなわちわがしもベダビデである。彼は彼らを養う。
彼は彼らを養い、彼らの牧者となる。主なるわたしは彼らの神と
なり、わがしもベダビデは彼らのうちにあって君となる。主なる
わたしはこれを言う。

わたしは彼らと平和の契約を結び、国の内から野獸を追い払う。
彼らは心を安んじて荒野に住み、森の中に眠る。わたしは彼ら
およびわが山の周囲の所々を祝福し、季節にしたがって雨を降
らす。これは祝福の雨となる。野の木は実を結び、地は産物を出す。
彼らは心を安んじてその国におり、わたしが彼らのくびきの棒を
碎き、彼らを奴隸とした者の手から救い出す時、彼らはわたしが

しゅ さと かれ かさ くにたみ
主であることを悟る。彼らは重ねて、もろもろの国民にかすめら
れることなく、地の獣も彼らを食うことはない。彼らは心を安ん
じて住み、彼らを恐れさせる者はない。わたしは彼らのために、
よ さいばいじょ あた かれ かさ くに ほろ
良い栽培所を与える。彼らは重ねて、國のききんに滅びることなく、
かさ しょこくみん う かれ かみ
重ねて諸国民のはずかしめを受けることはない。彼らはその神、
しゅ かれ とも かれ いえ たみ
主なるわたしが彼らと共におり、彼らイスラエルの家が、わが民
であることを悟ると、主なる神は言われる。あなたがたはわが羊、
まきば ひつじ かれ かみ しゅ
わが牧場の羊である。わたしはあなたがたの神であると、主なる
かみ い 神は言われる】】

「ぶどうの木」発行

2012.11.1

※みことばは、「口語訳聖書」（日本聖書協会）から引用しました。